

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/ ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第326号
平成22年12月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp

差別即平等

しゃべつそくびようぜう



手塩に掛け
整った庭で

色鮮やかに咲く花も

人知れず

野辺に咲く

小さい素朴な花も

はた

「雑草」と

一括りで呼ばれる

嫌われ草も

姿形

佇まいは違えども

それぞれは

等しく

それぞれが

尊く

それぞれに

存在の価値がある

差別即平等

先般、檀家の方から仏教の宗派についての質問をいただきました。そこで、それにお答えすべく、その概要と若干の私見を述べさせていただきますことにしました。お付き合い下さいませ。

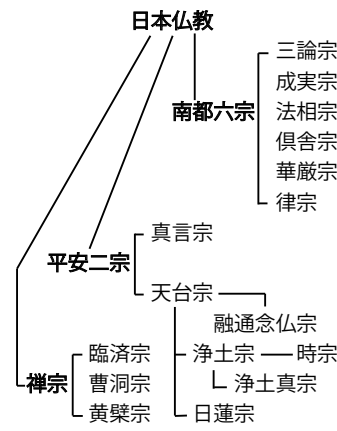
日本の仏教の宗派は、古いものから見ていきますと、奈良時代には、中国から伝えられた宗派というよりは学派であった、いわゆる南都六宗の三論宗、成実宗、法相宗、俱舍宗、華嚴宗、律宗があります。有名なところでは、東大寺

(華嚴)、興福寺・薬師寺(法相)、鑑真で知られる唐招提寺(律)があり、法隆寺も現在は聖徳宗ですが、以前は法相でありました。

平安時代になりますと、遣唐使として帰朝した空海(弘法大師)による真言宗(高野山金剛峰寺)

と最澄(伝教大師)の天台宗(比叡山延暦寺)が開宗されました。鎌倉時代には、日本独自の仏教

が開花し、比叡山で学んだ法然が浄土宗を、その弟子であった親鸞が浄土真宗を、また、日蓮は日蓮宗を開宗しました。一方、中国で興った禅宗を伝えて、栄西が臨済宗を、道元が曹洞宗を開宗しました。江戸時代には、明の僧、隠元によって、やはり禅宗の黄檗宗が開宗されました。図式化すると次のようになります。



一般には、教義的な観点から、十三宗五十六派に分けられること

が多く、その場合の十三の宗派とは、法相宗・華嚴宗・律宗・天台宗・真言宗・融通念仏宗・浄土宗・臨済宗・浄土真宗・曹洞宗・日蓮宗・時宗・黄檗宗(成立順)で、そして、各宗が各派に細分化されて五十六になるわけです。しかし、先の大戦後、信教の自由を定める宗教法人法が成立し、多数の教団が分派・独立し、現在では、多岐多様の新興宗教が乱立していることは、ご承知の通りです。

さて、それぞれの宗派が教団として成り立つためには、教義・儀礼・組織において独自性を発揮することにになります。その結果、他宗派との差別化が図られることになり

ます。たとえば、教義的には同じはず

の浄土真宗の東西両本願寺派において、その仏壇は、ご本尊を始め仏具等の意匠が微妙に違っており、儀礼・組織の面では、オリジナルティーをしっかりと主張しております。

また、浄土宗系では念仏「南無阿弥陀仏」、日蓮宗系では題目「南無妙法蓮華經」を唱えるというように、対照されることの多い宗派では、教義面での違いをはっきりと打ち出しております。

しかし、すべての宗派、仏教の根本に立ち返ってみますと、その教えは、次の偈文に集約することができます。

諸悪莫作 衆善奉行
自淨其意 是諸仏教

つまり、「諸々の悪しきことをせず、多くの善いことを実行しなさい。そして、自らその意を浄め

ていくこと、これが諸仏の教えである」ということです。

さらに申せば、「上求菩提、下化衆生」、「上に向かつては、悟りを願求して仏道修行し、下に向かつては、利他の行として衆生を教化し救済していこうという、菩薩の心を持ちなさい」ということでもあります。その意味において、すべての仏教宗派は、教義・儀礼・組織に差別こそあれ平等なのであります。そのところを、我々仏教徒は、しっかりと認識しておかなければなりません。

ところが、宗教というものは、聖なるものといいつつ、卑近な喻えで語弊があるかもしれませんが、恋愛感情に似たところがあリまして、「恋は盲目」「痘痕も醫」「鼻屑の引き倒し」のような状況に陥ることもまれではありません。

せん。そこで、他宗派に対して攻撃的になったり、反社会的行動をとったりして、由々しき問題を引き起こすこともあったりします。仏教徒として、信仰心を持つことはとても大切なことですが、この点にも、心せねばなりません。

仏典に由来する「群盲象を評す」あるいは「群盲象を撫す」ともいう成句があります。多くの盲人に大象を示して、それぞれに鼻・耳・身体・足・背・尾などを触らせて、象とはどんなものかを批評させたら、自分が触って知ったことだけで判断して、象はこれこれであると主張して譲らなかつたといえます。我々の仏教に對する認識も、似たようなものかもしれません。「差別即平等」、聖徳太子の言葉「世間虚仮、唯仏是真」を改めて肝に銘じておかねばなりませんまい。

法然上人八百回大遠忌

平成23年4月27日(水)



臨終を悟られた法然上人は、枕を北にして、顔を西方に向けて、弥陀三尊の来迎仏に迎えられ「光明遍照」の偈文を唱えつつ眠るように息を引き取られました。法然上人80歳、釈尊の入滅と同じ年齢でした。建暦2年(1212)1月25日のことであります。

◎費用 一万円
 本山への志納金
 三千元、昼食費
 を含みます。

五十年に一度しか巡り会えない法然上人の大遠忌が、御本山禅林寺永観堂で厳修されます。組寺総勢二百名で団体参拝をいたします。
 当日、副住職が役を仰せつかっております。檀信徒の皆様には、奮ってご参加下さいますよう、お願い申し上げます。(価値ある記念品あり)

◎除夜の鐘

12月31日(旧暦30日) 大晦日の夜半から元日にかけて、寺院で梵鐘を108回つくと、百八の鐘ともいふ。中国宋代から始まったとされる。108の数については、凡夫の煩惱を108種とし、その消滅を祈念するといわれるが、数え方には諸説ある。心を纏縛して修行を妨げる無慚・無愧・無愧・嫉・慳・悔・睡眠・

掉挙・憍沈・忿・覆の10種と、人々を迷いに結縛する九十八結を加え108とする説六根と六境の関連から六塵穢れ煩惱が生ずるときそれぞれに好悪平非好非悪の3種があつて18となり、おのおのに染・浄の二を乗じて36、さらにおのおのに過去・現在・未来の3種があり、これを乗じて108となる説などがある。また中国の曆法により1年

を分けた12か月、二十四節氣、七十二候を合した数であるともいわれる。鐘の打ち方については、107回までは旧年中に、残りの1回を新年につくようにするのが慣習である。

『日本大百科全書』小学館刊

雑記



▼年の瀬

この一年を振り返ってみますと、先ずは、猛暑、異状気象で大変でした。そして、何と云っても、尖閣諸島の問題でありましょう。政治家の方には、歴史をしっかり学び、正しい舵取りをしていたいただきたいものです。

▼日記

新しい日記を購入しました。私のは、5年連用ダイアリーです。

◆**躍る文字沈む文字あり日記果つ** 沐魚